

○用意…心をつかう。心を用いる。

○誼舎…漢の賈誼が、文帝の時、左遷させられて長沙王の太傅となった時の宿舎の故事を指す。『史記』『文選』に見える語。「二章」で詳述する。

○長沙…右に同じ故事をふまえる語。『漢語大詞典』には「見「長沙傳」。指西漢賈誼、文帝時賈誼被謫爲長沙王太傅、故稱」の説明を載せる。『菅家後集』「484敍意一百韻」中にも「長沙沙卑濕、湘水水瀰濛」の句が見える。

一一

筆者は先に「序」でこの詩を読み解く鍵が第五句目の「此時傲吏思莊叟」と第十二句目の「優於誼舎在長沙」にあるのではないかと述べた。ここで各々の句の出典の考察を通して見えてくるものを以下に論じてみる。

「第五句目「此時傲吏思莊叟」について」

この句中の「此時傲吏思莊叟」には川口久雄氏を始めとして既に先学にも指摘があるように『史記』「老子・韓非列傳第三」中の次のような一文を踏まえる。

莊子者、蒙人也。名周。周嘗爲蒙漆園吏。(中略)楚威王聞莊周賢、使使厚幣迎之、許以為相。莊周笑謂楚使者曰。千金、重利、卿相、尊位也。子獨不見郊祭之犧牛乎。養食之數歲、衣以文繡、以入大廟。當是之時